鶏肉情勢

令和6年3月8日 更新

全農チキンフーズ㈱

項目	内容
供給	1. 国内 (1) 生産・処理動向調査((一社)日本食鳥協会令和6年1月末実施)によると、1月の推計実績は処理羽数60,922千羽(前年比101.4%)、処理重量185.3千ト(同101.6%)となった。前月時点の計画値より処理羽数は0.4%下方修正、処理重量は0.7%上方修正された。処理重量ベースで前月予測・前年実績以上の成績となり、育成は順調であったことが伺える。高病原性鳥インフルエンザの影響が特に発生しなかったことに加えて、関東・南九州産地の増体が良好のようだ。鶏病の発生もあまり聞かれなかったことから育成率・増体ともに順調だったと考える。 (2) 2月の計画はうろう年の影響もあり、全国で処理羽数・処理重量ともに前年を上回る予想となっている。3月については土・日・祝日が前年から2日増加したことによる処理工場稼働日数の減少に加え、寒暖差による育成率・増体の悪化等により処理羽数・処理重量が前年を下回る予想となっている。3月4日時点で、8県9例(内肉用鶏1例・肉用種鶏1例)、家さんより高病原性鳥インフルエンザの発生が報告されている。工場の人員不足については外国人技能実習生が来日するようになったことで、少しづつ解消されており、加工品(切り身・手羽中二ツ割・砂肝スライス等)や副産品(小肉・ハラミ等)の生産は徐々に回復している。
	2. 輸入 (1) 財務省2月28日公表の貿易統計によると、令和6年1月の鶏肉(原料肉)の輸入量は前月から+3.7千トの54.7千トで、国別ではブラジルが前月+7.5千トの41.3千トでタイが▲3.2千トの12.9千トとなった。前年同月の実績に対しては+10.3千トとなった。(独)農畜産業振興機構(ALIC)による今後の見通しでは、ブラジルが高病原性鳥インフルエンザの影響から回復したことや、タイ・アメリカは順調に入荷していることから、2月が62.7千ト(前年比133.1%)、3月は52.6千ト(前年比110.7%)となっている。また、加工筋向けの比較的安価なタイ産ムネ肉が入荷しているという情報もあり、国産鶏肉の相場への影響が懸念される。 (2) 鶏肉調整品の輸入量は、前月から▲8.6千トの35.7千トで国別では中国が▲3.3千ト、タイが▲5.2千トとなった。前年同月実績34.3千トとの差は+1.4千トとなり、前月比は減少したが前年比は上回る結果となった。タイの生産は引き続き安定しているが、為替も含め価格高騰の状況が続いていることもあり、1月の入荷実績は大幅な減少となった。外食についてはインバウンド需要等で回復しており、中食・総菜向け等の引き合いも安定的に継続している状況である。 (3) 財務省が2月28日に公表した貿易統計によると、1月の輸入鶏肉(解体品)の価格は前年同月より4.7%下降し、鶏肉調整品は前年同月より6.1%上昇した。解体品の国別価格は、ブラジル産の価格が295円/kg(前月比13円安)、タイ産が372円/kg(同22円安)となっている(国別平均価格)。前年比ではブラジル・タイともに価格下落の状況である。ブラジル産は余剰感もあり、入荷も回復する見込みとなっていることから国内市場価格は下落基調である。タイ産についても国内市場価格は下落基調になっており、今後の国産鶏肉への影響を注視したい。
需要	1. 家計消費 (1) 総務省統計局発表の家計調査報告(全国・二人以上の世帯1世帯あたり)によると、令和6年1月の生鮮肉消費(購入)は数量4,185g(前年比98.4%)、金額6,735円(同99.4%)と、数量・金額とも前年を下回った。鶏肉は数量1,501g(同100.7%)・金額1,608円(同103.1%)・単価107.1円/100g(前年同月+2.6円)と、数量・金額・単価の全てが前年を上回る結果となった。調理食品が金額12,323円(同102.9%)、外食が15,015円(同107.6%)となっている。畜産の購入量は牛・豚が前年を下回り、鳥が前年を上回る結果となったため、消費者の節約志向の高まり等から比較的安価な鶏肉へ需要がシフトしたのではないだろうか。調理食品においては、共働き世帯の増加や光熱費の高騰による理由などから、家庭での調理敬遠が働き順調に推移している。外食においては、イベント開催の回復や、入国規制緩和での外国人旅行者によるインバウンド需要もあり、回復傾向にあると考えられる。
	2. 量販・卸 (1) 食品関連スーパー3団体の販売統計速報によると、令和6年1月の食品売上高は全店ベースで前年比102.9%と前年を上回った。生鮮3部門の売上高は全店ベースで同101.8%、既存店ベースは同101.1%となった。また、畜産部門の売上高は約1,254億円で全店ベース同100.0%、既存店ベース同99.3%となった。一般社団法人全国スーパーマーケット協会によると、1月は例年に比べ気温が高かったため鍋物需要が低迷、畜産部門は物価高に伴う消費者の買い控え等の影響で前年を下回る結果となった。総菜部門は、光熱費の高騰による調理敬遠および共働きによる自炊機会の減少等で前年を上回った。畜産部門においては、暖冬の影響による鍋物の不振に加え、精肉全般で相場高傾向のため牛肉から豚肉・鶏肉に需要のシフトが続いている。牛肉は、年末商戦ではしゃぶしゃぶ、すき焼き用の和牛は売り上げを確保できたが、それ以外は苦戦。豚肉は国産、輸入ともに高値の影響を受け伸び悩み。相場の安定している鶏肉は好調。ハムやソーセージなどの加工肉は動きが鈍い。消費者の節約志向の高まりにより、買上点数は減少傾向が続いているとのこと。
	3. 業務・加工筋 (1) 日本ハム・ソーセージ工業協同組合調べによると令和5年1月度の鶏肉加工品仕向肉量は、前年比98.3%の4.1千トとなった。うち国内品は同93.9%の3.3千トと前年を下回り、輸入品については同119.8%の0.8千トと前年を上回った。
在庫	1. 令和6年1月 (1) (独)農畜産業振興機構(ALIC)の推定期末在庫では国産31.2千ト(前年比127.5%・前月差▲2.4千ト)、輸入品125.9千ト(同100.2%・同+10.2千ト)と合計で157.0千ト(同104.7%・同+7.8千ト)となった。
	2. 見通し (1) (独)農畜産業振興機構(ALIC)が発表した鶏肉需給表では、1月の出回りは国産142.3千ト(前年比103.7%・前月差▲10.0千ト)、輸入品44.5千ト(同103.5%・同▲10.8千ト)と合計で186.8千ト(同103.7%・同▲20.8千ト)となった。昨年末、解凍品として冷凍モモ肉が消化されなかったこともあり、2月以降の国産在庫については前年を上回ると予測する。輸入鶏肉の入荷量はブラジルの高病原性鳥インフルエンザの影響が解消されたことや、タイ産ムネ肉の輸入量が増加すると見込まれることから、2月は大幅に、3月はかなりの程度、前年を上回る予測となっている。出回りは2、3月ともわずかに上回る予測であることから、期末在庫は2、3月ともに前年を上回ると予測する。
相場	1. 令和6年2月動向 (1) 令和6年2月の月平均相場は、モモ肉682円/kg(前月差▲19円)・ムネ肉369円/kg(同▲8円)正肉合計で1,051円/2kgと前月を27円下回り、前年同月を163円下回った。モモ肉相場は月初693円、月末は673円となり(昨年は月初802円、月末806円)、前年の相場を下回った。生産においては、前年に比べ高病原性鳥インフルエンザの発生および鶏病の発生も抑えられており、比較的順調に推移している。国内在庫量が増加傾向にあり、量販店へ特売を打診するインテも増加したことから国産モモ肉の余剰感が出てきた。ムネ肉においては、消費者への価格訴求としての需要はあるものの価格は下落基調だ。正肉と比較して比較的安価な手羽もとは、生鮮品・冷凍品ともに引き合いは強い。相場は前述にもある通り、月初から月末まで相場は下落基調が続いた。
	2. 見通し (1) 3月の生産量は前述にもあるように工場稼働日数の減少により前年を下回る計画である。寒暖差の影響により増体悪化も懸念されるため、生産は若干減少すると考える。令和5年度(3月4日時点)は家さんより、8県9例の高病原性鳥インフルエンザの発生が確認された。前年度の同期間では25県76例発生しており、抑えられてはいる。今後は、春に向けて暖かくなっていくことから、終息に向かうことを期待したい。暖冬の影響で鍋商材の売れが鈍く、モモ肉においては量販店の特売用として輸入解凍品を販売している店舗も目立つ。ムネ肉は消費者への価格訴求品としての引き合いは強いが、冷凍品が年度末に向けて在庫消化の動きもあることから価格は若干下落基調だ。モモ肉相場は下げの月平均660円、ムネ肉相場はもちあいの月平均370円と予測する。 (2) 3月に入り、モモ肉・ムネ肉とも売れは落ち着き余剰感が出てきた。12月の家計調査では、牛・豚・鶏とも前年の数量は上回ったが、単価は前年を下回った。消費者の節約志向の働きにより、安価な商品を中心に売れていると思われる。量販店では、春型の売り場へ棚替となるが、輸入モモ肉(解凍品)を販売している店舗も見られ、今後、高病原性鳥インフルエンザの影響で輸入量が少なかったブラジル産モモ肉が多く国内へ入荷されることが予想されるため、テーブルミートへの拡大が懸念される。2月の正肉相場は、消費者の物価高の理解が進んでいることも手伝い正肉計1,000円以上を維持した。今後も牛肉から安価な豚肉、鶏肉へ需要のシフトが続いていることに加え、訪日外国人は増加傾向のためインバウンド需要も期待出来る。モモ肉相場は下落の可能性はあるものの鶏肉相場は引き続き高水準で維持していくと思われる。

実績

生産状況 単位:千羽、千トン、%

	R5年累計(推計)		R6年1月推計実績		R6年2月計画		R6年3月計画		R6年4月計画	
	数量	前年比	数量	前年比	数量	前年比	数量	前年比	数量	前年比
入雛羽数	784,087	101.2%	67,299	102.5%	62,916	103.7%	63,856	99.5%	65,945	102.3%
処理羽数	743,734	100.9%	60,922	101.4%	60,985	105.0%	64,692	99.7%	63,842	103.9%
処理重量	2,240.5	101.0%	185.3	101.6%	183.4	104.8%	194.3	98.4%	192.0	101.6%

※参考資料:㈱全国食鳥新聞社発行「PMN」

輸入動向 単位:千トン、%

履歴	鶏肉			調製品			合計			比率	
	当年	前年	前年比	当年	前年	前年比	当年	前年	前年比	鶏肉	調製品
R4年累計	574.5	595.8	96.4	525.8	481.0	109.3	1,100.3	1,076.8	102.2	52.2	47.8
R5年累計	584.9	574.5	101.8	478.0	525.8	90.9	1,062.9	1,100.3	96.6	55.0	45.0
R5年8月	56.0	47.4	118.1	40.4	47.8	84.5	96.3	95.2	101.2	58.1	41.9
R5年9月	48.4	46.8	103.4	40.8	44.3	92.2	89.2	91.0	98.0	54.2	45.8
R5年10月	47.8	53.9	88.6	44.4	44.1	100.6	92.2	98.1	94.0	51.9	48.1
R5年11月	39.2	49.8	78.7	46.6	43.1	108.2	85.8	92.9	92.4	45.7	54.3
R5年12月	51.0	44.3	115.1	44.3	40.4	109.6	95.3	84.7	112.5	53.5	46.5
R6年1月	54.7	44.4	123.3	35.7	34.3	104.1	90.4	78.7	114.9	60.5	39.5

※参考資料:財務省「貿易統計」、(独)農畜産業振興機構「鶏肉需給表」

鶏肉の消費動向 単位:グラム、円、%

履歴	数量			金額		
	当年	前年	前年比	当年	前年	前年比
R4年平均	1,510	1,526	99.0	1,448	1,410	102.7
R5年平均	1,495	1,510	99.0	1,547	1,448	106.8
R5年8月	1,363	1,372	99.3	1,411	1,309	107.8
R5年9月	1,424	1,492	95.4	1,487	1,386	107.3
R5年10月	1,502	1,574	95.4	1,587	1,534	103.5
R5年11月	1,508	1,495	100.9	1,569	1,505	104.3
R5年12月	1,885	1,729	109.0	1,950	1,854	105.2
R6年1月	1,501	1,491	100.7	1,608	1,559	103.1

※参考資料:総務省統計局HP 家計調査報告(全国・二人以上の世帯1世帯あたり)

相場(年別・暦年) 単位:円

	モモ肉	ムネ肉	計
H28年	621	255	876
H29年	626	315	941
H30年	595	282	877
R元年	585	243	828
R2年	614	269	883
R3年	641	313	954
R4年	662	348	1,010
R5年	730	395	1,125

在庫状況(推定) 単位:千トン、%

履歴	国産			輸入品			合計		
	当年	前年	前年比	当年	前年	前年比	当年	前年	前年比
R5年8月	32.0	28.5	112.3	133.3	121.2	110.0	165.3	149.7	110.4
R5年9月	30.0	25.8	116.3	132.5	121.2	109.3	162.5	147.1	110.5
R5年10月	29.8	25.2	118.0	130.9	127.5	102.7	160.7	152.7	105.2
R5年11月	30.9	23.4	132.1	120.0	129.9	92.3	150.8	153.3	98.4
R5年12月	33.6	24.6	136.1	115.7	124.2	93.1	149.2	148.8	100.3
R6年1月	31.2	24.4	127.5	125.9	125.6	100.2	157.0	150.0	104.7

※参考資料:(独)農畜産業振興機構「鶏肉需給表」

相場(月別) 単位:円、%

品名	モモ肉			ムネ肉			正肉合計		
	当年	前年	前年比	当年	前年	前年比	当年	前年	前年比
R4年度平均	702	627	112.0	371	317	117.0	1,073	944	113.7
R4年平均	662	641	103.3	348	313	111.2	1,010	954	105.9
R5年平均	730	662	110.3	395	348	113.5	1,125	1,010	111.4
R5年11月	673	729	92.3	374	396	94.4	1,047	1,125	93.1
R5年12月	691	773	89.4	377	417	90.4	1,068	1,190	89.7
R6年1月	701	805	87.1	377	422	89.3	1,078	1,227	87.9
R6年2月	682	800	85.3	369	414	89.1	1,051	1,214	86.6
R6年3月	(660)	799	82.6	(370)	411	90.0	(1030)	1,210	85.1
R6年4月	(650)	789	82.4	(370)	410	90.2	(1020)	1,199	85.1

※()は見直し